

【課題番号：EECS2521】

医療専門職を目指す人材育成のための基礎調査—へき地と都市部との比較—

吉田司秀子¹⁾ *、工藤健太郎²⁾、新岡大和¹⁾

1) 青森県立保健大学健康科学部 理学療法学科、2) 医療法人雄心会青森新都市病院

Key Words ①キャリア意向 ②ヘルスリテラシー ③へき地

I. はじめに (または「緒言」等)

医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」を構築するためには地域に根ざした医療専門職の確保と育成が重要な課題である。特にへき地では医療・介護資源に限られるなかで互助の担い手としての人的資源も必要である。我々は青森県のへき地医療拠点病院における研究で、在宅生活の継続に移動能力が関連することを示したが、その能力に貢献できるリハビリ専門職の不足が顕著である。

一方、職業選択の形成には家庭環境や保護者の影響が大きく、保護者の医療専門職に対する考えが子のキャリア意向に影響する可能性が報告されている。大和田ら¹⁾や山田ら²⁾は子が幼いころから医療・介護に関する情報に触れる機会や医療・介護職を目にする機会は、キャリアの意向を形成する際に重要であると報告しているが、子がメディアを通して医療・介護に関する情報を入手したり、子自身やその家族が医療・介護の機関を利用したりする場合、その保護者の「医療専門職に関する知識・ヘルスリテラシー」の影響を受けると考える。また、佐藤³⁾や飯塚ら⁴⁾は「親の勧め」が職業選択に影響したことを示しており、「保護者が持つ子のキャリアに関する意向」が、子に影響する可能性は高いと考える。

さらにこれらの「保護者の医療専門職に関する知識・ヘルスリテラシー」や「子のキャリアに関する意向」は、へき地と都市部では教育環境や産業構造が異なることから違いが生じると考えられる。

II. 目的

へき地と都市部とで、就業を控える小学生・中学生・高校生以上を持つ保護者の「子のキャリアに関する意向」や「医療専門職に関する知識・ヘルスリテラシー」の違いを明らかにすることとする。

III. 研究方法 (または「研究の経過」等)

1. 研究デザイン

Web アンケートを実施する横断研究である。なお、本研究は青森県立保健大学研究倫理委員会の承認を受けて行った (承認番号 25056)。

2. 対象

対象は全国の子をもつ保護者とし、調査会社が保有するモニターの中から居住地によって選定する。居住地は、人口規模により、インフラや主要産業、教育環境に違いがあると考え、総務省の地方公共団体区分を参考に人口 5 万人未満の町村を「へき地」、人口 50 万人以上の指定都市を

*連絡先：〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1 E-mail: s_yoshida@ms.auhw.ac.jp

「都市部」と定義した。

3. アンケート概要

調査項目は、1) 基本情報(年齢、性別、職業、年収、学歴、居住地、子の年齢・兄弟数)および、2) 医療専門職に関する知識・ヘルスリテラシー、3) 子のキャリア意向に関する設問から構成する。設問の多くは5件法とし、ヘルスリテラシーは European Health Literacy Survey Questionnaire (HLS-EU-Q16) を用いる。

4. 統計解析

収集したカテゴリー変数は χ^2 検定または Fisher の正確確率検定を用いて、へき地群と都市部群とを比較した。また、全ての連続変数の正規性を確認するために Shapiro-Wilk 検定を適用し、2標本 t 検定によって比較した。なお、HLS-EU-Q16 は「とても難しい」「やや難しい」の回答を 0 点、「やや簡単」「とても簡単」の回答を 1 点として合計点を算出した。解析には IBM SPSS Statistics 28.0 を用い、有意水準を 5%とした。

IV. 結果および考察

へき地群と都市部群を比較した結果、親の基本情報では最終学歴はへき地において高校以下が有意に高く、大学および大学院が有意に低かった。子のキャリア意向では大学に進学してほしいかどうかを問う質問では、へき地では「思う」割合が有意に低く、「思わない」割合が有意に高かった。しかし、保護者の医療専門職に関する知識・ヘルスリテラシーについては2群間で有意な差を認めなかった。HLS-EU-Q16についても、総得点の比較および各設問の回答分布を用いた χ^2 検定のいずれにおいても、へき地群と都市部群の間に有意差は認められなかった。これらの結果から、保護者の学歴や進学に関する意識の違いは、主要産業や保護者自身が受けた教育に影響を受けると考えた。今後は、地域特性との関係をさらに分析し、地域に根ざした医療人材育成に向けた基礎的知見を蓄積していく予定である。

V. 文献

- 1) 大和田波輝、富田美加、他：看護師である母親の存在が看護大学生の職業選択に与えた影響、茨城県立病院医学雑誌、40、19-27、2024
- 2) 山田陽平、安藤友一、他：地域で医療人を育む事業の評価：医療・介護職体験イベント「メディカルキッズ」参加者の医療人志向への影響、医学教育、55 (3)、235-238、2024
- 3) 佐藤有耕：親の職業との関連でみた大学生の子どもの心理的特徴—医学部生と教育学部生を対象として—、筑波大学心理学研究、51、71-81、2016
- 4) 飯塚照史、辻下守弘、他：2021年リハビリテーション学科新入生における志望経緯に関する調査、奈良学園大学紀要、14、1-6、2021

VI. 発表 (誌上発表、学会発表など採択年度から過去2年間の実績を記載してください。)

日本ヒューマンケア科学学会第18回学術集会；医療専門職を目指す人材育成のための基礎調査—へき地と都市部との比較—